理事長挨拶

学校法人　加 計 学 園
理事長・総長　　加計　晃太郎

本年度は岡山理科大学の獣医学部から初となる獣医師 77 名を社会に輩出しました。初めて構造改革特区申請を行った平成 19 年度から 11 年目の平成 30 年度に学部開設し、今日に至るまでに 16 年かかりましたが、「One World One Health」をコンセプトに立ち上げた獣医学部から社会に貢献できる人材を輩出できましたことは、私共にとりまして感慨深い成果であったと思います。

一方、私学を取り巻く環境は益々厳しさを増し、全国の私立大学においては入学定員未充足となった大学が本年度に初めて５割を超え、地方の小中規模大学の多くは前年度より充足率が低下したと日本私立学校振興・共済事業団より発表されましたが、本学園はこの困難を乗り越えるべく第２期中期計画に掲げた「１　教育・研究の推進」「２　学生生徒の支援」「３　地域社会との連携」「４　国際化の推進」「５　DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進」「６　ガバナンス体制と内部質保証システム」の６つを柱とする「加計学園ビジョン 2026」の実現を目指し、当年度の事業計画に基づき事業を遂行しました。

第２期中期計画（2022～2026 年）の２年目の事業報告が纏まりましたのでご報告いたします。岡山理科大学では、「選ばれる大学」を目指し、２学科の改組と通信制課程の設置申請を行い、幅広い層への教育の展開に向けた準備をしました。また学習成果の可視化などの教育ＤＸにより効果的かつ効率的な学生指導を実現させました。さらに科学研究費補助金の配分額は過去最高額に上り、中国四国地区の私立大学で３年連続１位となり、社会から選ばれる大学としての取組も成果を上げました。倉敷芸術科学大学で次年度からスタートさせる「A＆S（アート＆サイエンス）教育プログラム」の準備として DP・CP の見直しによるカリキュラムの作成、LMS による教育 DX 推進のための研修会の開催、図書館へのアカデミックコモンズの整備等を行いました。また学友会、同窓会を改変し全学学生会、校友会を発足させ学生の意見を汲み取る仕組みを構築しました。千葉科学大学においては教育改革の基となる３つのポリシーの見直しと共に学生個々の学習成果の可視化を促進しました。一方で今後の大学運営の在り方について銚子市とも公立化の協議を始めました。附属高等学校・中学校においては教育の推進、生徒の支援に取り組んだ結果、受験生からの評価も上がり徐々に生徒数も増えてきました。また専門学校、こども園についても各設置校で掲げたビジョンと中期計画の実現に向けた取り組みを進めました。個々の事業計画に対しては、S（目標以上の成果）・A（目標を達成）・B（目標をほぼ達成）・C（課題が残る）・D（未達・未実施）の５段階で自己評価を行い、ビジョン実現までの進捗状況を確認し、軌道修正が必要なところは次年度以降の事業計画に反映させることとしています。

学園の発展は学生生徒の成長と共にあり、建学の理念である「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出す」ことを実践するべく教育・研究力にさらに磨きをかけ、教育機関としてのブランド力を一層向上して参りたいと思います。